

派遣先所属 宮城県東部土木事務所

氏 名 石渡 保、坂本甲次、宮本敏夫、小嶋秀雄

派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

当事務所のある宮城県石巻市の、牡鹿半島の東南東方向に130Kmほど離れた沖合の海底（深さ24km）が東北地方太平洋沖地震の震源地であり、東北三県の中でも最も甚大な被害を被った地域が当事務所管内です。電子基準点「牡鹿」では、東南東方向へ約5.3m、上下方向に約1.2m沈下するなどの地殻変動が観測されました。

牡鹿半島は宮城県北東部地域を代表する風光明媚な自然に恵まれた地域ですが、リアス式海岸特有の複雑な海岸線であるが故に、牡鹿郡女川町、石巻市雄勝地区、牡鹿地区の浜ごとにあつた集落と漁港施設などのほとんどの公共施設は津波に飲み込まれ壊滅的な被害を受けました。

当事務所の管内全域では堤防の沈下・決壊など河川28箇所、擁壁損傷等の急傾斜地3箇所、堤防の決壊等で海岸25箇所、路面損傷など道路535箇所、落橋や重大な損傷により橋梁34箇所の合計625箇所という甚大な被害が発生しました。

こうした状況下において、今年度、当事務所では16班体制・職員数145名（事務31名、技術53名、任期付き12名、再任用4名、自治法派遣27名、非常勤職員9名、臨時職員9名）により業務に取り組んでいます。

埼玉県からの派遣職員は4名で、うち3名は用地取得とそれに付随する業務、残る1名は道路の設計と施工管理の業務に携わっています。

事業ごとの進捗状況は、公共土木施設の災害復旧事業では、河川・砂防、海岸、道路、橋梁の土木施設箇所ベースで約96%、金額ベースで約91%の着手率となつてはいますが、完了率では、河川・海岸合わせて32.1%、道路・橋梁合わせて89.5%となっています。

多重防御による津波防災・減災対策のうち、津波防護レベル（レベル1）対策として実施している河川・海岸の整備では、河川堤防で8箇所のうち7箇所（88%）、海岸保全施設では15箇所のうち13箇所で本格工事に着手しています。

津波減災レベル（レベル2）対策としての道路の整備である（都）門脇流留線の魚町地区については、平成27年1月から、早期の工事着手を目指して用地取得の進捗に努めているところです。

復興まちづくりと関連する道路整備については、当事務所が整備を進める復興道路は、10路線25箇所あり、各市町が行う防災集団移転計画等との調整を進め、早期の用地買収、工事着手に向けて事業を推進中です。

工事の発注に当たっては、設計額によって事務所発注ではなく本課発注となるため

業者選定のプロセス（指名選定委員会の複数回開催）で、より多くの時間がかかり、かつ契約成立に議会承認が必要となるため、それに合わせたスケジュールで設計業務を行うことが要求され、継続的に超過勤務が発生しています。こうした努力にも関わらず入札不調となっているケースが多数発生しており（過去2年間の当事務所工事での実不調率は、14%）事業進捗の妨げとなっています。

一方、事業用地を取得するには土地所有者の所在調査、土地所有者への事業説明、土地境界の確定、相続関係に関する調査、建物・工作物等の物件移転補償額の算定、土地価格の決定などの手順を踏むことが必要となります。その過程では測量コンサルや補償コンサルとの打ち合わせ、関係する市町の担当者や所内の事業班との協議、事業の進捗状況の報告・確認、法務局への登記相談など、派遣元とは気質や流儀、システム、組織の雰囲気などが大きく異なることを実感しながら業務を遂行しています。

被災されている土地所有者の立場や気持ちに寄り添い、今後の生活再建に配慮しながらの用地取得交渉や、それに伴う市町との連携、各種手続きの補助などは基より、所在調査や相続調査、関係機関や所内での調整・協議、業者との打合せ等に、多くの時間を費やしています。それにも関わらず、現在の用地取得筆数は、災害復旧事業で2,296筆中1,109筆（進捗率48.3%）、復興道路事業では2,229筆中403筆（進捗率18.1%）、合わせて4,525筆中1,512筆（進捗率33.4%）であり、用地取得の遅れと困難さを表しています。

他方、業務の中で特に成果があったと実感していることは、地元の区長さんや、支所で働いている地元出身の市職員の方と連携を密にすることで、土地所有者との人間関係のつながりから所在が判明したり、交渉がスムーズに運んだり、移転先地の選定などに大いに役立ったことです。

各河川・海岸災害復旧工事の進捗状況は河川課のHP内に掲載

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/sinntyoku.html#ishinomaki>

東部事務所管内の様子は「東部土木事務所復旧・復興だより」に掲載

<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/319100.pdf>

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

市町の災害公営住宅建設も所々でようやく完成を迎える建物が目につくようになってきたところですが、総じて当事務所管内の災害復旧事業・復興事業は、市町の事業も含めて、全てを完了するには、まだまだ長い時間が必要であると感じています。

数多くの労苦を伴う派遣先での業務ではありますが、埼玉県内での仕事では絶対に経験できない海岸部や河口部の現場、忍耐強く仮設住宅で暮らす被災された方々との感動的な触れ合い、漁師さんたちや新鮮な魚貝との刺激的な出会い、全国からの個性的な派遣職員との交流など、貴重な体験を積ませていただいていることに感謝します。